

かお・人・interview

2026年8月17日

所長

インタビュー

国土交通省 九州地方整備局
山国川河川事務所長

原田 佐良子氏

HARADA Sayoko

山国川流域は、英彦山や耶馬溪などの名勝地を有し、四季を通じて多くの観光客が訪れる。一方で、九州有数の急流河川として、大雨時の増水や近年の渇水など多様な課題を抱えている。こうした特性や気候変動を踏まえ、河川整備や流域治水をはじめ、景観に関する独自の「山国川ルール」を継承・活用し、技術の伝承やスキルアップにも力を入れている。住民の安全・安心と地域活性化に向けた現状と今後の展望について、原田所長に話を伺った。

Q所長就任にあたっての抱負

山国川流域は、英彦山、犬ヶ岳、黒岳などの山地に囲まれ、「名勝耶馬溪」や「耶馬日田英彦山国定公園」に指定されています。青の洞門、競秀峰、深耶馬溪などの景勝地をはじめ、下流域にも国指定史跡の大ノ瀬官衙遺跡、山国橋、中津城など、歴史・文化・景観を伝える貴重な資源が数多く残されています。山国川は、これらを結び、流域の暮らしや産業を支える重要な役割を担っています。

一方、九州屈指の急流河川である山国川は、大雨時に急激な水位上昇が起こりやすく、洪水被害を繰り返し経験してきました。地域の皆さまのご理解とご協力のもと、自然や景観に配慮した河川整備を進めています。また、山国川の水は、農業用水や中津市、北九州市、京築地区の水道用水、工業用水、発電用水などに利用され、暮らしや産業を支える重要な資源となっています。しかし、少雨が続くと流況が悪化し、渇水が発生しやすい課題もあります。洪水・渇水のリスクや気候変動の影響を踏まえ、今後も河川整備、維持管理、耶馬溪ダムや平成大堰を含む施設管理に着実に取り組んでまいります。

先輩方が築いてこられた地域との信頼関係を大切に受け継ぎ、河川・ダム管理の技術や知見を次世代へ継承していきます。安心して暮らせ、訪れる人にも魅力を感じていただける山国川流域を目指し、期待に応える川づくりを進めてまいります。



▲山国川源流

平成24年の大災害後は山国川の景観に調和した河川整備を大切にしてきました。その考え方をまとめた独自の「山国川ルール」を継承し、技術の伝承やスキルアップにつなげています。

Q九州と大分の関わりについて

出身は福岡県久留米市です。筑後川に近い地区の小学校に通い、遠足やマラソン大会、風あげ大会などで、河川敷を訪れる機会が多くありました。

1990(平成2)年に九州地方建設局(現・九州地方整備局)へ採用され、筑後川工事事務所(現・筑後川河川事務所)に配属となりました。ふるさとである筑後川流域の仕事に携わる機会をいただいたことを、大変ありがたく感じています。2年間の自治体出向を除き、これまではほぼ一貫して河川事業に携わり、福岡県内の河川事務所や九州地方整備局で業務に従事してきました。

夫が大分県大分市出身ということもあり、これまでも家族で大分を訪れる機会はありませんでしたが、今回初めて大分の地で仕事に携わることとなりました。単身赴任という新たな生活環境の中で、業務に取り組んでいます。

町の3市3町です。

山国川河川事務所は、山国川の下流から中流地区(河口から27K300まで)を管理する事務所で、職員33名(事務系10名、技術系23名)が在籍しています。組織は、総務課、流域治水課、管理課、ダム管理課、中津出張所で構成され、山国川の調査・計画・発注・施工・維持管理をはじめ、耶馬溪ダムや平成大堰の操作、広報、防災対応、流域治水の推進など、幅広い業務を担っています。

Q事業概要について

河川整備では、唐原・相原地区の堤防整備事業(平成28年度～)を継続するとともに、百留地区(令和5年度～)および原井・三光土田地区(令和6年度～)の河道掘削工事を実施し、流下能力の向上を図ります。



◀唐原地区河川防災ステーション



Q事務所の紹介

山国川は、大分・福岡両県境にそびえる英彦山をその源とし、多くの渓流や支川を集めながら、耶馬溪・中津平野を経て周防灘に注ぐ、流路延長56km、流域面積540km²の一級河川です。流域内市町は、福岡県吉富町、上毛町、大分県中津市、日田市、宇佐市、玖珠

また、上毛町と連携して進めてきた「唐原地区河川防災ステーション事業」については、令和8年5月に東側エリアが完成し、供用を開始しました。山国川河川事務所管内では初の河川防災ステーションとなる本施設は、緊急復旧資材の備蓄や水防センター・ヘリポートを備えた災害対応の拠点として、また平常時には防災学習の場

としても活用されます。なお、西側エリアは令和9年3月の完成に向け整備を継続しています。

地域活性化では、「山国川かわまちづくり」において、



▲山国川かわまちづくり
社会実験の様子

下流域での整備完了を受け、令和8年度から新たに中流域（大分県中津市）で事業を開始します。メイプル耶馬サイクリングロード（旧耶馬溪鉄道跡）を基軸に、名勝「耶馬溪」の自然・景観・歴史を体感できる空間づくりを進めます。さらに、令和8年3月には山国川中上流域が「特定都市河川及び流域」に指定されました。これにより、流域治水を本格的に推進するための制度的基盤が整い、今後、ハード・ソフト両面から総合的な治水対策を進めていきます。



▲河川協力団体による河川美化活動

Q 地域との連携・協働について

気候変動の影響により水災害の激甚化・頻発化が懸念される中、特定都市河川の指定以前から、山国川流域（中津市、日田市、宇佐市、吉富町、上毛町、玖珠町）では、流域のあらゆる関係者が協働して水災害対策を行う「流域治水」に取り組んでいます。今後は指定を契機に、関係者が一体となって、より具体的な水災害対策を進めていきます。

また、山国川流域では3つの河川協力団体（レスキュー・サポート九州、耶馬溪の自然と景観を守る会、水辺に遊ぶ会）と連携し、防災体験学習や河川美化活動、河川環境学習などの継続的な活動を支援しています。

さらに、地域の皆さまに山国川や防災・減災への理解を深めていただくため、耶馬溪ダムや平成大堰などの河川管理施設の見学会や、山国川についての出前講座を積極的に実施しています。施設の役割や操作を学ぶ見学会のほか、川の安全学習やおサカナ観察会

など、川に親しみながら防災意識を高めていただく取り組みも行っています。今後も地域の皆さまとの顔の見える関係を大切にしながら、連携を深めていきたいと考えています。

Q 地域建設業への要望・メッセージ

山国川流域では、平成24年7月九州北部豪雨、平成30年4月の土砂災害、令和5年7月豪雨など、大きな災害が発生しています。その際、災害協定を締結している建設会社をはじめ、地域の建設業界の皆様には迅速な復旧活動にご尽力いただき、心より感謝申し上げます。



▲建設業者の協力による、若手職員の現場体験

今後、安心・安全

で魅力ある山国川流域を実現していくためには、建設業界の皆様のご存在は欠かすことのできない重要な役割を担っています。働き方改革や担い手確保など、取り組むべき課題もありますが、引き続きパートナーとして意見交換を重ねながら、より良い連携関係を築いていきたいと考えております。

Q 趣味や健康法について

趣味は読書や音楽鑑賞、映画鑑賞など多趣味ですが、最近はスマートフォンで写真を撮ることも楽しみの一つになりました。心を惹かれる風景に出会うと、ついシャッターを切ってしまいます。ここは景観が美しく、思い出に残る写真をたくさん残せる場所だと思うので、その魅力を存分に記録していきたいと考えています。

また、健康維持にも気を配っており、ウォーキングを再開したいと思っています。好きな言葉は「笑う門には福来たる」です。この言葉を大切にしながら、日々を明るく前向きに過ごしていきたいです。

プロフィール



R8年 4月 現職

福岡県生まれ、59歳。

H28年4月 九州地方整備局 河川部 河川管理課長補佐
H30年4月 九州地方整備局 企画部 建設専門官
H31年4月 九州地方整備局 遠賀川河川事務所 技術副所長
R3年 4月 福岡市 総務企画局 水資源対策担当部長
R5年 4月 九州地方整備局 河川部 河川環境課長
R7年 4月 九州地方整備局 企画部 事業調整官